

東京農業大学 拓友会ニュース

第37号・2021年9月30日発行
発行所 東京農業大学拓友会
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
TEL.03-5477-2918 FAX.03-5477-2947
e-mail : takuyu@nodai.ac.jp
<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>

拓友会総会について

第63期拓友会総会の開催時期および開催方法については現在検討中です。詳細が確定次第、拓友会ホームページ (<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>) にてご連絡致します。

お問い合わせ先

E-mail:katsu10@nodai.ac.jp (東京農業大学国際農業開発学科 中曾根 勝重)
Tel:03-5477-2918 (東京農業大学国際食料情報学部 事務室)

卒業生の活躍

バングラデシュ農村の学校給食～継続の鍵は母親たちの願い

1981年卒業 松本(旧姓 佐藤) 智子

カン、カン、カン、カン！ここはバングラデシュ農村の小学校、午前は低学年、午後は高学年の2部制で授業が行われる。午前クラスの終わりを告げる鐘を、先生に頼まれて5年生の児童が鳴らす。鐘を合図に、低学年児童が教室から飛び出して1本のポンプに長蛇の列を作る。給食前の手洗いに、5年生が手押しポンプの水を出して手伝う。教室には調理員のおばさんが大きな鍋を持ってきて、持参のお皿にケチュリ（野菜炊き込みご飯）を分けてくれる。ここでもエプロンをした5年生たちが手伝ってくれる。ケチュリには地元で作った大豆やお母さんたちが持ち寄った野菜が入っていて、栄養満点、児童が喜んで食べる。



私たちが学校給食を始めたきっかけは、2008年に行った貧血検査で、子どもたちの半数以上が栄養不足の貧血と分かったことだった。発達に大きく影響する栄養不足を何とか解決できない

かと、地元産の大豆を使った学校給食の試みが始まった。当時バングラデシュには学校給食はなかった。自分の家に帰って食べることができない児童はお腹を空かせて我慢するしかなかった。1日1食学校給食で栄養ある食事がとれるように、電気もガスも水道もない村でいかにして衛生的な調理、学校給食の提供を行うかを考えた。水の確保、調理員トレーニング、栄養バランスを考えたメニューの開発を行い、2010年から給食を開始した。

結果は、栄養摂取状況がよくなり、毎月の体格検査から、体格の向上、出席率の増加、ドロップアウトの減少、学習意欲・体力の向上など大変よかったです。しかし、残念なことに3年間の日本の援助がなくなると、継続できなかった。開始当初から、地域と話し合い3年後は自分たちで実施する計画で、約束通りハンドオーバーしてみると、日本がやってくれるのが当然のような依存体質・・・。

私たちは、初めから地域住民の参加・協力がないとダメだということに気づいた。2015年、開始当初から学校・保護者・住民リーダーと話し合い、運営組織を作り、児童1人1か月米2キロ（高学年は3キロ）、地域住民から野菜の寄付を集めて、給食を開始した。一度寄付が集まらず運営組織が中断を決めたが、児童の母親たちが、何としても継続してほしいと運営側に詰め寄り、保護者から材料費としてお金を集めることに賛成し、日本側も貧困児童のために一部支援をすることで、

現在も継続している（コロナ禍で休校中）。

海外協力活動は、住民が本気で自分たちでやろうとする事業でなければ、結局継続しない。村には継続できない理由はたくさんある。私たちの活動は、相手の文化や考え方を尊重し、相手の力を信じ、一緒に考えることから始まる。これからも母親たちの子どもの健康を願う強い思いを大切にして、彼女たちの願いが行動につながるよう応援していきたい。

私は1981年卒業後、青年海外協力隊でバングラデシュに派遣され、国境近くの農村で、女性開発プログラムとして野菜栽培や生活向上の活動を行った。土地なし家庭でも家の周りや屋根の上にカボチャやツルムラサキなど家庭菜園を作っている母親たちを先生にして、野菜は貧乏人が食べるという固定観念がある中、野菜の栄養の大切さを紹介した。その後家政や手芸隊員が、栄養指導、伝統的な刺しゅうによる収入向上事業へと活動は広がっていった。

協力隊は帰国するまでの活動だが、帰国後もバングラデシュ農村の人々を応援したいと、有志がNPO団体を設立し、現在理事長を引き受けている。協力隊でライフワークと出会えたことは感謝だ。かつての最貧国バングラデシュも今年は独立から50年、今や低開発国を脱却すべく躍進する一方で、貧富の格差が拡大し課題は山積み、これからも目が離せない。

住まい作りのトータルプランナー
宅地建物取引業 千葉県知事免許(11)第6298号

 **南房商事株式会社**

代表取締役 藤井 勝政(拓殖1期)
〒297-0029 千葉県茂原市高師57番地
電話 0475(23)3251(代表)



地域一番の品揃え
TABLE GARDEN CENTER
契約農家直送、だからこそ新鮮!!

テーブルガーデンセンター

TEL 045-935-4187(代)
〒226-0023 横浜市緑区小山町 611-3

代表取締役社長 篠原 敬一(拓殖20期)

2020年度 東京農業大学国際農業開発学科卒業論文 拓友会賞

食品ロスの現状と認知による削減について

農業環境科学研究所 中根 由季

指導教員 入江 満美

推薦文

世界の食料生産量の3分の1が廃棄されている一方で、7億人もの飢餓人口がいるという現状から、2030年までに食品ロスを半減することが国際目標となっている。この廃棄される食品のうち、本来食べられるはずの食品を食品ロスという。

中根さんは大学食堂の方、学内のパン屋の店長、商店街の店主の方には直接食品ロス削減への考え方などを聞き取り、コロナ渦においてはZoomのゼミで食品ロス対策に取り組む企業の方、食品ロスを削減したい自治体の方とのやり取りなどを通して様々な立場の方から聞き取りを行った。また、賞味期限きれや消費期限の近い食品を扱うスーパーを視察に行くなど、消費者の食品ロスになってしまふものへの態度も確認した。

これまで実施したアンケート結果やゼミでのやり取りから、世田谷区が課題として掲げる食品ロス削減に向け、改善提案をゼミメンバーで作成しチャレンジオープンガバナンス2020（自治体と市民や学生が協力し、データに基づいて地域の課題の解決に取り組むアイデアのコンテスト。東京大学公共政策大学院の「情報通信技術と行政」

研究プログラム主催）に提出した。

アンケート調査は3回実施した。まず、食品ロス削減アプリ導入時の2019年10月にグリーン食堂でインタビュー形式（n=77）で実施し、次に、2019年12月に大学で学生を対象にマークシート方式（n=107）で実施した。そして、最後に一般消費者の食品ロスについての取り組み意欲を2021年1月にインターネットでアンケート調査を実施した17歳から19歳までの10代、20代～70代まで10代刻みで、男女それぞれ30名ずつから回答を得るようにし、調査に必要な人数に達した時点でデータ回収終了。（n=436）

インターネットアンケートの結果、次の3点が明らかになった。

①食品ロスについて取り組みたいという人は多いが、食品ロスに対する知識の少なさや実際に食品廃棄体験をしたことが無いため、食品ロス削減のために何をしていいのか理解していない人が多いこと。

②消費者は現在の世界や日本の食品ロスの深刻

まちに彩りを、人の心に潤いを



株式会社 ムラカミ シード
MURAKAMI SEED CO.,LTD



ユーストマ シャインホワイト

本社

〒309-1738 茨城県笠間市大田町341
TEL 0296-77-0354 FAX 0296-77-1295
E-mail: info@murakami-seed.com
<http://www.murakami-seed.com>



ビオラ きいろももか

ムラカミシード
水戸研究農場

〒319-0323 茨城県水戸市鯉渕九ノ割5986
TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

ガーデンショップ
花みどり

〒319-0323 茨城県水戸市鯉渕九ノ割5986
TEL 029-259-6332 FAX 029-259-6226

代表取締役会長 村上典男（拓殖23期）

村上 登（拓殖26期）

村上 忠義（拓殖29期）

さに危機感を感じておらず、食品ロスに対する知識が少なかったこと。

③被験者のこれまでの農業を身近に感じることができると、体験が食品ロスに対する意欲に関係すること。

これらの結果より、食育や農業体験を定期的

して継続的に行うこと、飲食店を通して食品ロスについて触れていくことが、食品ロス認知に繋がり食品ロス削減の効果が得られると考えた。

以上の点から、本論文は優秀論文として相応しいと考え、ここに推薦いたします。

新任教員の挨拶

開発学科の一員として

檜谷 邑

2021年4月より、国際農業開発学科の助教に着任いたしましたので、この場を借りてご挨拶申し上げます。農業環境科学研究室で、主に熱帯植物生態学を担当させていただいております。専門は生態学・環境動態学を軸とし、植物・土壤・水などの化学分析を得意としていますが、水生生物の生態から植生調査まで手広くやっています。私は本学の卒業生で、食料環境経済学科を卒業した後、大学院で国際農業開発学専攻へ進学し、熱帯・亜熱帯のマングローブ生態系から沿岸海域への栄養供給機能に関する研究により修士および博士号を取得いたしました。大学院生活の5年間は、年に何度も調査地の西表島へ赴き、フィールドを駆けめぐりました。時には胸まで

海水に浸かりながらマングローブ林を調査し、森の中で一夜を明かすこともありました。西表島の美しい大自然の中で、研究が行えたことは学生時代の一生の宝物です。

学位取得後は、本学の地域環境科学部、生産環境工学科の博士研究員として、東アフリカのジブチ共和国における農大SATREPSプロジェクトに携わらせていただきました。極乾燥地のジブチにて持続可能なアグロパストラル・システムの実装を目指すこのプロジェクトの中で、私はジブチ在来植物の有用性に関する研究に従事しました。現在では、研究の対象範囲を広げ、マングローブ生態系の栄養動態に関する研究、熱帯植物に含まれる有用成分の解明とその利用法に関



する研究に加えて、パインアップルの施肥効率に関する研究や、アマモ場の成立・衰退機序に関する研究にも取り組んでいます。

最後に、教育・研究に関する考え方と抱負について少しお話しさせていただきます。自身の研究観を一言で表すと、「木を見ず、森を見る」です。物事の一部分や細部に気を取られてばかりでは、全体を見失ってしまいます。たとえば森と海は一見かけ離れた存在のように見えますが、実は両者はお互いに影響を及ぼしあっています。この複合的、相互連関的な自然生態系システムを読み解き、正しく理解することが、人類と自然システムとの調和、持続的な食料生産を行う上で極めて重要と考えます。そのためには、広い視野から物事を観察するいわば鳥の眼が必要になります。鳥瞰的視野を持ち、自然生態系を俯瞰してみることの大切さを講義や研究室教育を通じて学生に伝えたいと考えております。研究・教育者として、まだまだ未熟な点が大いにあると自覚していますが、これまでの経験や知識を最大限に生かし、後進の指導に邁進したいと強く思っております。皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



マングローブと筆者(宮古島、沖縄)



海産の顕花植物であるアマモ(富津干潟、千葉)



株式会社東京アグリビジネス
TOKYO AGRIBUSINESS CO., LTD.
緑地防除管理・請負メンテナンス・資材販売

代表取締役社長 野瀬 忠
(昭和52年 拓殖18期)

〒252-0302 神奈川県相模原市南区上鶴間2-7-7
TEL 042 (744) 6237
FAX 042 (744) 6295

農業生産法人 (株)ライフォン

樋口 稔
(拓殖 10期)

〒059-0272 北海道伊達市北黄金町 119-47
〒181-0004 東京都三鷹市新川 3-15-12
Tel:0422-48-8976
Mobile:090-3203-4950

第61期 会計収支決算
(令和元年10月1日～令和2年9月30日)

一般会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 会費	1,760,000	1,280,000	▲ 480,000
卒業生	1,760,000	1,280,000	▲ 480,000
既卒者	0	0	0
2. 事業	280,000	242,000	▲ 38,000
ニュース広告	140,000	140,000	0
行事等収入	140,000	102,000	▲ 38,000
3. 寄付金等雑収入	30,000	29,000	▲ 1,000
4. 前年度繰越	545,003	545,003	0
合　計	2,615,003	2,096,003	▲ 519,000

支出の部	予算	決算	差異
1. 事業支出	1,020,000	509,999	▲ 510,001
総会費	190,000	164,594	▲ 25,406
新入会員歓迎会費	200,000	0	▲ 200,000
名簿整備	100,000	0	▲ 100,000
ニュース発行	300,000	293,150	▲ 6,850
拓友会賞	50,000	22,255	▲ 27,745
在校生への補助	180,000	30,000	▲ 150,000
2. 管理費	1,020,000	727,115	▲ 292,885
会議費	100,000	55,146	▲ 44,854
印刷費	20,000	0	▲ 20,000
交通費	50,000	14,000	▲ 36,000
通信費	600,000	576,082	▲ 23,918
消耗品費	100,000	633	▲ 99,367
雑給費	100,000	80,000	▲ 20,000
雑費	50,000	1,254	▲ 48,746
3. 特別会計積立金	200,000	200,000	0
4. 予備費	375,003	0	▲ 375,003
5. 次年度繰越金	0	658,889	658,889
合　計	2,615,003	2,096,003	▲ 519,000

特別会計

収入の部	予算	決算	差異
1. 前年度繰越	2,524,987	2,524,987	0
2. 一般会計より繰入	200,000	200,000	0
3. 雑収入	50	21	▲ 29
合　計	2,725,037	2,725,008	▲ 29

支出の部	予算	決算	差異
1. 次年度繰越金	2,725,037	2,725,008	▲ 29
合　計	2,725,037	2,725,008	▲ 29

第62期 会計収支予算
(令和2年10月1日～令和3年9月30日)

一般会計

収入の部	第61期	第62期	差異
1. 会費	1,760,000	1,520,000	▲ 240,000
卒業生	1,760,000	1,520,000	▲ 240,000
既卒者	0	0	0
2. 事業	280,000	140,000	▲ 140,000
ニュース広告	140,000	140,000	0
行事等収入	140,000	0	▲ 140,000
3. 寄付金等雑収入	30,000	10,000	▲ 20,000
4. 前年度繰越	545,003	658,889	113,886
合　計	2,615,003	2,328,889	▲ 286,114

支出の部	第61期	第62期	差異
1. 事業支出	1,020,000	630,000	▲ 390,000
総会費	190,000	0	▲ 190,000
新入会員歓迎会費	200,000	0	▲ 200,000
名簿整備	100,000	100,000	0
ニュース発行	300,000	300,000	0
拓友会賞	50,000	50,000	0
在校生への補助	180,000	180,000	0
2. 管理費	1,020,000	950,000	▲ 70,000
会議費	100,000	60,000	▲ 40,000
印刷費	20,000	10,000	▲ 10,000
交通費	50,000	30,000	▲ 20,000
通信費	600,000	600,000	0
消耗品費	100,000	100,000	0
雑給費	100,000	100,000	0
雑費	50,000	50,000	0
3. 特別会計積立金	200,000	400,000	200,000
4. 予備費	375,003	348,889	▲ 26,114
合　計	2,615,003	2,328,889	▲ 286,114

特別会計

収入の部	第61期	第62期	差異
1. 前年度繰越	2,524,987	2,725,008	200,021
2. 一般会計より繰入	200,000	400,000	200,000
3. 雑収入	50	50	0
合　計	2,725,037	3,125,058	400,021

支出の部	第61期	第62期	差異
1. 正代闇大闇昇進お祝い金	0	100,000	100,000
2. 次年度繰越金	2,725,037	3,025,058	300,021
合　計	2,725,037	3,125,058	400,021

農大130周年事業の紹介

1891年に徳川育英会「育英齋農業科」として設置された本学は、本年度、創立130周年を迎え、下記の事業・イベントを展開いたします。

詳しくは大学ホームページをご覧ください (<https://www.nodai.ac.jp/130/>)。

イベントスケジュール

9月 <ul style="list-style-type: none"> ● 東京農大の近未来宣言 ● 世界学生サミット特別シンポジウム「アジアにおける東京農大のプレゼンスを高める」 ● 「食と農」の博物館130周年企画展示「学祖群像—豊かさをつなぐ(仮)」 ● 130周年記念動画「『つなぐ』みんなのメッセージ」
11月 <ul style="list-style-type: none"> ● 農学部とカセサート大学(KU)とのシンポジウム 「Future Perspective of Crop Improvement Studies in Asia- Breeding, Biotechnology, Genetic Resources and their Application -(仮)」 ● 地域環境科学部とカンボジア王立農業大学(RUA)とのシンポジウム 「Sustainable Rural Development towards SDGs through Local Collaboration in Cambodia(仮)」 ● 國際食料情報学部とフィリピン大学ロスバニヨス校(UPLB)および ボゴール農科大学(IPB)とのシンポジウム 「Enhancing International Academic and Research Collaborations for the Next Generation(仮)」 ● 生物産業学部とロシア極東連邦大学(FEFU)とのシンポジウム 「Sustainable Exchange of Human Resources and Cultures between Hokkaido and Russian Far East(仮)」
12月 <ul style="list-style-type: none"> ● 応用生物科学部とペンシルベニア州立大学(PSU)とのシンポジウム 「Dietary Recommendation; What is Needed and What is Too Much(仮)」
2月 <ul style="list-style-type: none"> ● 生命科学部とカリフォルニア大学デービス校(UC Davis)とのシンポジウム 「Life Sciences towards SDGs and beyond ~From Molecules to Globe~(仮)」
3月 <ul style="list-style-type: none"> ● 東京農大SDGsシンポジウム「SDGs in Africa(仮)」

ふれあいの旅を演出する (株)アルファインテル

代表取締役: 佐藤 貞茂 (拓殖15期)

電話: 03-5473-0541
FAX: 03-5473-0540
■ www.alfainter.co.jp
✉ info@alfainter.co.jp

〒105-0003 東京都港区西新橋1-20-10 西新橋エクセルビル7階
平日 9:30~18:30 土曜日 9:30~12:00 日・祝日は休み

観光庁長官登録旅行業1835号
IATA(国際航空運送協会)公認代理店
日本旅行業協会正会員
社団法人海外ツアーオペレーター協会正会員




東京都知事登録旅行業第3-5792号



キックス・エアー・チケット
株式会社 キックス

代表取締役 塩満 仁
〒187-0003 東京都小平市花小金井南町2-17-2-603
Tel 042-458-1180 Fax 042-458-1180
携帯 090-1761-0970
E-mail shiomitu@bird.ocn.ne.jp
E-mail info@kix-j.co.jp

<http://www.kixairticket.com>

学科教員・学生の受賞記録

国際農業開発学科

食品ロスゼミがチャレンジオープンガバナンス2020のコンペにて銅賞を受賞

チャレンジオープンガバナンス2020(<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/padit/cog2020/>)という地方自治体が解決したい課題について、その住民や学生が解決アイデアを提案するコンペがあります。

世田谷区は食品ロスの削減を掲げていたた

め、東京農業大学国際農業開発学科食品ロスゼミというチーム名で、学内・学外でのアンケートや、学内での食品ロス削減の取り組み、学生とのやり取りで生まれたアイデアをまとめて、提案しました。セミファイナリストとしてミニプレゼンを行い、銅賞を受賞しました。

来年度以降の『拓友会ニュース』の配信方法について

これまで、『拓友会ニュース』については、紙媒体で作成したものを会員の皆様へお送りしていましたが、来年度以降はオンラインでの配信へと変更いたします。

紙媒体での『拓友会ニュース』に馴染み深いという方も多いかと思いますが、近年の送料の値上げや紙資源の削減などを考慮しての変更となりますので、何卒、ご理解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

なお、拓友会ホームページには、過去に発刊したニュースも含めてアップロードしておりますので是非ご覧ください。

拓友会ホームページ

<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/takuyu/>



2007年から国際農業開発学科を志望する中高生向けに学科を分かりやすく紹介するホームページ (<https://www.nodai.ac.jp/academics/int/int/>) を公開しました。

海外実習や国内（学内・学外）実習、教員・学生の調査の様子、研究の様子について学部生・院生・教員からの投稿記事を随時掲載中。

国際協力を志す子弟や教え子の進学先を考えていらっしゃる方、是非一度アクセスを。